

知事と区市町村長との意見交換

(利島村、青ヶ島村、三宅村、八丈町)

令和5年10月16日(月)

14時30分～15時30分

○**行政部長** それでは、本日の意見交換でございますけれども、利島村ほか、3町村についての実施を予定しております。

まず利島村から始めまして、その他青ヶ島村、三宅村、八丈町、それぞれ順次参加をして頂きます。

こちらの声と映像はしっかり聞こえておりますでしょうか。いかがですか、マイクオンにして御発言いただければ。

○**利島村長** はい、大丈夫です、聞こえております。

○**行政部長** こちらも聞こえておりますので始めさせていただきます。

まず始めに知事の方から一言御挨拶をお願いします。

○**知事** はい、小池でございます。お待たせをいたしました。

そしてまたこういう形で皆様方の最新の状況、また、御要望などを伺うと、今日はトップバッターでいらっしゃいます。すみませんちょっと風邪をひきまして、久しぶりのマスク姿でございます。

利島では5月に大きな地震が発生されましたし、確かJアラートのときにいきなり北海道と利島って全然関係ないところとか地理的にはどう考えても何か理解不能のところまで名前が出されたりと、何かと危機管理の観点からも注目もされているところでございます。

また、先日は津波注意報が出されたということで、自然災害というのは本当にいつ何が起こるかかわからない、そういう中で利島村の村長として様々な御苦労いただいているのだらうと思っております。島の安全な生活を守るためにも、これからも都とそして利島村で連携していきたいと考えております。限られた時間ではございますけれども御意見、御要望を伺わせて頂きます。よろしくをお願いします。

○**利島村長** よろしくをお願いします。

○**行政部長** それでは、村長、村のPR含めて要望についてお話しいただければ。

お願いします。

○**利島村長** はい、いろいろ御配慮頂きましてありがとうございます。

本日はこのような場で機会を設けて頂きまして、ありがとうございます。

まずは本村の主要事業課題について発言させていただきます。

現在、本村ではサステナブルな利島村を目指し、子育て環境の充実、移住定住の促進、基幹産業の活性化、この三つの柱を軸に事業を展開して取り組んでおります。

昨年度、東京都にご支援を頂き導入したオフグリッド型トレーラーハウスについては今年度より、水循環システムの実証実験を開始し現時点で雨水、及び循環水のみで安定した水供給ができており、引き続きデータを積み上げ、今後、建設予定の公共施設等に導入していきます。

また、今年度から令和7年度にかけて太陽光発電、水循環システムを備えた次世代の住宅としてサステナブル住宅建設事業、それから島の魅力向上事業、基幹産業振興事業を「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」で行い、さらには本村で初の複合施設となる複合型サテライトオフィス建設事業や移住定住促進住宅建設事業を行っていきます。

令和8年度以降も水循環システムを活用した将来に向けた水インフラの最適化の検討やコミュニティポータルサイトの充実を図り、島内外への情報発信を強化し、移住定住をさらに推進していきます。

一方で、現在大島支庁にご支援をいただいておりますが、専門知識を持った職員の採用が非常に困難であったり、小離島が故の施工期間の延長といった課題があり、引き続き東京都のご支援を賜ればと存じます。

続いて、意見交換の3事業について発言させていただきます。

1つ目は、複合型サテライトオフィスを活用したチルドレンファースト社会の実現についてです。今年度より、東京都の3C補助金を活用しコワーキングスペース、人材交流スペース、デジタル技術を活用し子供が体を動かし遊べるスペース、子供が集中して勉強できるスペース、全ての世代が次世代コミュニケーションツールを活用し学べるスペースを備えた、本村では初となる複合型施設建設事業を開始しております。

本施設を建設することで島内外の人材交流や子育て世帯間の交流が活性化され子供たちの多様な学び場、最先端技術を体感できる遊び場の提供が可能となり、高校進学の際に島を離れる子供たちが帰って来たい島、在住者が住み続けたい島、また、子育てがしやすい島、さらには島外の方が住んでみたい島と思えるような島づくりを目指します。

一方で、急峻な地形での造成、海上輸送による資機材搬入など、小離島ならではの困難な課題に直面しながら整備事業を推進していくことが必要です。このような地域の特長事情を鑑み引き続き支援をお願いします。

2つ目ですが、移住定住事業支援の継続についてです。本村では、複合型サテライトオフィス建設事業以外にも主要事業として、サステナブル住宅建設事業、公園改修事業、農漁業振興事業、移住定住促進住宅建設事業を今年度より3か年で集中的に実施していきます。

これらの主要事業を島内外へPRすることで移住定住促進への相乗効果を期待できますが、専門人材の不足により、事業の深掘りができませんでした。しかし、今年度より東京都の移住定住アドバイザー派遣事業を活用し、コミュニティポータルサイトの開設について検討を行っていただいております。

今後、効果的なコミュニティポータルサイトとして運用していくためには構築に当たったの検討に加え、魅力的なコンテンツの発信など、継続的に取り組んでいく必要があります。東京都においては、引き続き移住定住アドバイザーの派遣、サイト構築・運営に係る技術的・

財政的支援をお願いいたします。

3つ目ですが、通信インフラの強靱化についてです。現在、島の西側に大島及び新島に向けて海底光ケーブルが伸びていますが、過去に両ケーブルが切断し、通信障害が発生した経緯があります。加えて、台風などの波浪やうねりにより防護管の補修が度々行われている状況です。デジタルサービス局にて強靱化に向けた工事が準備されておりますが、海底光ケーブルの利島港港湾施設内の陸揚げ部分が1か所のみであるため、複数個所で陸揚げを行うよう更なる強靱化をお願いします。

また、万が一、海底光ケーブルが切断された場合、復旧までに1か月から3か月かかるおそれがあり、行政サービスを継続するため衛星回線などを利用した総合行政ネットワークなどに接続するためのバックアップの構築に対する技術支援及び財政支援をお願いします。

さらに、海底光ケーブルの切断による通信障害に備え通信事業者、東京都、関係自治体などによる連絡協議会の創設をお願いします。

現在、本村においても無電柱化整備計画について大島支庁の支援を頂きながら進めているところですが、マンパワー不足、かつ技術職がいないため、村道無電柱化の推進について苦慮しているところで御座います。

通信インフラの強靱化を進める上でも、無電柱化の推進が重要であり、更なる技術支援や人的支援などをお願い致します。以上になります。

○行政部長 ありがとうございます。それでは冒頭、知事から利島村の今後の取組、さらには要望について御発言をお願いします。

○知事 はい、村山村長からサステナブルな利島村、これを目指すための取組についてお話を伺いました。

何よりも重要なのは水資源ということでございます。そして、また、後ろのバックパネルもツバキがきれいに描かれていますけれども、やはり農業、特に椿油というのは非常に重要な産品でございますし、何よりも水資源というのが重要でございます。安定した水の供給、そして住宅の確保について、この両立を目指す先進的な取組になっておりますので、今後も新たな移住者が増やせるようにさらに発展させていくというのは重要なことでございます。地域の課題・解決に向けて、これまでにない大胆な発想で共に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それからチルドレンファーストというのは、私はかねてから3つのC（Children、それからChōju、Community）ということで、この3つは今まさに日本の課題とでも言っているかと思いますが、それが凝縮した形で、利島村で3つのCが確実に進むことを期待しております。

その複合型のサテライトオフィスということについてお話ありました。デジタル技術を活用して子供の遊びとか学び、交流の拠点を一体的に整備する先駆的な取組で、今年の7月に3C補助金ということで採択をさせて頂きました。Iターンの移住者の割合が高いと伺っております。84%ということで、だから故郷に戻って来たいという方がいかに増えているかということかと思えます。

ごめんなさい。Iターンですから利島村にとにかく住んでみたいという方が多いということで、やはりそこはいかに日本中いくらでも地域があって、島もある中でどう利島村を選んでもらうかというのはとても重要なことで、そのうち既にその84%はIターンだというふうに聞いております。子供子育て世帯と、そして地域の住民の皆さんとまさしく交流拠点、コミュニティー、それができると、他世代との関わりの中で子供さんが育っていく、利島村育ちというようなことがとても輝いて聞こえる、そういうふうな環境づくりが進むことを期待いたしております。地域の特性も踏まえながら、3か年に渡っての支援を行っていくことといたしますし、そのIターンの世代が20代から40代ってまさに子育ての最中の世代が多いということが想像できるわけですね。是非子育てもしやすいし、仕事もしやすいというそういう利島村を創っていければというふうに期待をいたしております。私から以上でございます。

○副知事 それでは、村長の他の御要望につきましては、私の方から発言させていただきます。

まず、移住定住のお話がありました。今年度から利島をはじめ、町村が設置する移住定住の取組用途としても精力的に進めております。お話がありましたオフグリット住宅の整備、あるいは、「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」による支援こういったものを進めているところでございます。

また、ポータルサイトのお話も頂きました。移住定住のポータルサイトの運営、さらには、町村の課題解決に向けたアドバイザー派遣、こういったものもやっております。

引き続き村と連携をしながら、移住定住の促進に取り組んでまいります。

それから通信インフラと無電柱化のお話を賜りました。通信インフラの強靱化でございますが、村長のお話にもございました、利島は海底ケーブルの切断のリスクが高いというふうに認識をしております。特に陸揚げ部の強靱化。これが極めて喫緊の課題であるという認識をしております。令和5年度からはそういったものも含めて工事に着手をする。さらにはいわゆるブロードバンド、いわゆる総合行政ネットワーク、こういったようなものについてもしっかりと保守管理をやっていくということと、平時・緊急時問わず、各関係事業者通信事業者との連携を密にしていくというお話もございましたが、こういったようなものもしっかりと取り組んでいきたいというふうに今、デジ局で進めているところでございます。

無電柱化アイランドの話も頂きました。こちらは大島支庁に新しい組織と担当の増強を図りまして、現在精力的に進め、技術的な助言を行っております。引き続き無電柱化事業の推進に向けて都としても支援を実施してまいります。私からは以上です。

○行政部長 ありがとうございます。村長、一言もしあれば。

○利島村長 いえ、ありがとうございます、お忙しいところ。

是非先ほどの施設もそうですけれども、できた暁には利島村に知事も副知事もおいでください。よろしくお祈りします。

○行政部長 はい、ありがとうございます。それでは、利島村との意見交換は以上で終了とさせていただきます。

○**行政部長** それでは、青ヶ島村との意見交換を始めさせていただきます。始めに知事から一言お願いします。

○**知事** はい、今、青ヶ島村っていうのは本当に注目度が高くて「死ぬまでに見るべき世界の絶景 13」のうちに入っていると、ユーチューバーの佐々木加絵さんが情報発信をしておられるということで、若者の力でまた新たな青ヶ島の魅力が島外に広がっていく、島のPRにつながることは大変素晴らしいことだと思います。青酎が好きな人もいれば、自然が好きな人もいれば、探検が好きな人も同じかな。

本当にあの青ヶ島村、今、人口が168人ですが、一番小さな村ということだと思いますけれども、地域の課題、それから島として都政に御要望されることなど伺わせていただければと思います。

では、立川村長、よろしくをお願いします

○**行政部長** はい、それでは村長、青ヶ島村のPRと要望について御発言いただければ、お願いします。

○**青ヶ島村長** はい、それでは小池知事はじめ東京都の皆様には日頃から大変お世話になっております。貴重なお時間を割いていただきありがとうございます。また「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」についても御承認頂きましてありがとうございます。

それでは、最初は思いを伝えようという言葉がありましたので、常日頃の考えをお話いたします。

青ヶ島は天明の噴火で犠牲になった百数十人、ほかの二百余人は八丈島へ逃れたのですが、後に青ヶ島へ還住出来たのは五十年も経った子や孫の代になってからでした。この間、島へ帰還する努力は幾度も試みられましたが、その度に遭難し犠牲者は増え続けました。

この噴火で池之沢の真ん中に丸山が出来、その頂上に噴火口が出来たことで一望の下に見渡せる二重カルデラとして世界的にも貴重な地形となっていますが、歴史の陰には多数の島びとの犠牲や苦難がありました。池之沢の景観を眺めるとき、そうしたことに思いを馳せると、この景観こそが青ヶ島の魂だとの思いを強めます。

絶海の孤島、全国最少の160人という人口、自治体としての機能を維持できる、もしかすると最低限の人口かもしれません。国や東京都からの支援を得まして、財政面は維持できていますが、当面は人口増、そのためにも先人の思いの詰まった還住の歴史から今こそ起し返しの時だと考えております。

それでは、課題は数多くありますが喫緊のものについて2つだけこれに絞って申し上げます。

1つ目、有資格技術系の職員の派遣について、というこの中でも看護師さんについて確保のために、東京都に支援をお願いできないかということでもあります。青ヶ島の医療にとって、最も重要な診療所・医師については年度ごとに都より派遣していただいて、感謝している次第です。地域医療の充実のために引き続きご支援をお願いしたいと思います。

一方、医療人材の確保という点では看護師の採用に難渋し、公募にも応募者がいない現状では派遣会社に頼るより道がなく、将来的には数か月程度の短期契約を繰り返す事態も考え

られ、また、派遣法による1年間という制約もあります。このまま推移すれば看護師不在という緊急事態も出現しかねない。現に令和4年度後半は、常勤の看護師が欠員でアルバイトの看護師を週単位でつないで乗り切って、5年度当初は看護師不在も短期間ありました。全都に公募を見出すために、東京都町村会議長会の要望にもある通り、東京都へき地医療対策協議会を活用しながら、医療人材確保等の医療支援体制の充実をお願いしたいと思っております。

以下は、差し出がましい言い方になると思いますが、例えば都立病院の看護職の異動にあたって、期限付きで小離島の診療所勤務を希望する看護師さんを島に、また、東京都で採用、島しょ地区へ、その上で派遣というのはあり得ないようなことなのでしょうか。看護師さんの安定的な確保は村にとって解消すべき喫緊の課題と考えております。

次に移ります。2個目は10月1日に都のご支援を得ながら防災訓練をいたしました。防災訓練をしながらも噴火災害時における避難経路の一つに青ヶ島港、これは当然ながら想定していますが、火口原である池之沢地区を通らなければならない為、不通になった場合の迂回路を考える必要があります。毎年度、同じことを申し上げているようですが青宝トンネルが開通する前に使用していましたが、外輪山の外側を通るいわゆる上手道、この崩落の復旧を急いでいただいて安全に通行できるよう引き続きご支援を頂きたい。

また、避難経路、集落の地区にあるヘリポートを想定していますが、これも先ほど申し上げた、天明の噴火の時にはヘリポートの北側のジョウマンと言われる場所が噴火しまして、この場合は噴煙による視界不良。それからそうしたことで航空機の使用が不可能になることも懸念されます。この場合、集落の東側の海岸線を降りるための避難路も必要であると思っておりますが、現状、原型を見に行くにも崩落がありまして、どこに例えば設置すればいいのか色々、これも確定しがたいような状態なのですが、そうした場合、どうしてもやはり避難路が必要だと思っております。避難路を設定していく上でも、ご支援頂き、また避難路の確保事業を進める上でもご支援をお願いできればと思っております。青ヶ島からは以上です。ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございました。まず、知事の方から青ヶ島の歴史等に関するお話と併せて要望に対して発言をお願いします。

○知事 はい、歴史的にもお話がありました、火山の噴火ということで、内輪のカルデラがとても逆に魅力になっているということではございます。一方で、この火山噴火のリスクを抱えていることには変わりませんので、島しょ地域においては都民の生命財産を守るその備えとして避難経路の確保が重要であります。

また安全に避難できる体制づくりも進めることで、災害対応力の向上を図っていく、10月1日の訓練も一つであります。具体的にはお話がありましたように、上手道について平成19年度に崩落してから復旧工事は進めているところでございますし、また今年度中に崩壊を防止するための対策は、概ね完了いたしております。道路本体については復旧工事に着手する予定となっております。引き続きまして、早期の安全な通行確保に向けて対策工事を着実に進めてまいります。

また、火山防災対策に向けて必要な情報提供を行ってまいりまして、村と連携しながら避難経路、そして避難の対応など定めました計画を策定しておりますので、今後、道路の復旧状況などを踏まえながら適切に見直しを図ってまいります。

また、村が行われる新たな避難路の確保については、避難のあり方を含めまして、御意見をお伺いしながら必要な支援を行ってまいります。加えて、副知事の方から医療に関して発言があります。

○副知事 はい、それでは私の方から、医療関係従事者の確保・定着、特に看護師さんというお話を村長から頂きました。都は、東京都へき地医療対策協議会を設置しまして、困難なへき地町村の医療従事者の確保、各種の支援策等の検討を行っている。こちらは御案内のとおりでございます。この看護師の確保定着につきましても、求人情報の発信、あるいは就職の斡旋等を行う無料職業紹介事業、島しょ医療機関への現地見学会への補助、出張研修こういったようなものも行ってまいりますので、御活用頂きたいと思えます。

また、村長からの具体的なお話として、都立病院の看護師さんについてというお話も頂きました。都立病院機構では、新規の看護職員の就職の説明会のときなどに、島しょの医療機関でこういう現場があります、というようなことを紹介する機会、こういったものを設けております。引き続き都立病院機構としてできること、これも東京都と一緒に考えて考えながら、都と連携をしてへき地医療体制の充実に取り組んでいきたいと、このように考えております。私からは以上です。

○行政部長 はい、ありがとうございました。村長追加の御発言等々、ございますでしょうか。

○青ヶ島村長 特に追加はございませんが、どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 はい、ありがとうございました。それでは青ヶ島村との意見交換は以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

○知事 はい、どうもありがとうございました

○**行政部長** 三宅村との意見交換を始めさせていただきます。まず、冒頭、知事から一言お願いします。

○**知事** はい、こんにちは、今日もよろしくお願ひいたします。

三宅村は、コロナの時は本当大変でしたけれども、いよいよインバウンドのお客さまも迎えられるということで、外国船のクルーズ客船が寄港して、その時は村挙げていろいろ歓迎をされた。獅子舞とか火山体験ということも大人気だったと伺っております。どうぞこれからも「また三宅島には行ってみたいね」という遠くから来られる方も、ファンになっていただけるような、そんなおもてなしを引き続きお願いします。併せまして、島側の受け入れ態勢も必要かと思ひます。

今日は限られた時間でございますけれども、御意見、そして御要望を伺わせて頂きたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○**行政部長** はい、それでは村長、自治体のPRも含めてですね、御要望のご発言をお願いします。

○**三宅村長** 三宅村長の櫻田です。本日は何かとご多用の中、このような貴重な機会を頂きありがとうございます。

始めに、知事にはいまだ長引くコロナ禍やインフルエンザとの同時流行、物価高騰が続く中、私たち都民の生活を守るため、日夜大変なご苦勞をされているところ「未来の東京」戦略に掲げた様々な政策の課題に対し、迅速に対応され、また島しょ地区への変わらぬご高配に対し感謝いたします。

さて、感染対策と社会経済活動を両立させるウィズコロナの日常が本格化した昨今、三宅島においてはバードウォッチングや巨樹散策、ボルダリングなど個人でも楽しむことができる観光メニューのほか、火山観光を通じた防災体験による三宅島エコツーリズムなどの新たな観光コンテンツにより、三宅島でしか体験することのできない持続可能な観光への取組を進めております。

また、近年ではパッションフルーツに続く新たな農産物の安定生産や、特産品となるべく加工の6次産業化を目指すため、柑橘類などの果樹の栽培事業に取り組んでおります。今後も三宅島特産ブランドの確立、販路開拓等を促進し、地域経済の活性化、及び生産者の安定した収入の確保を図ってまいります。

現在、三宅島では島の表玄関とも言える三池港船客待合所や三宅島空港新ターミナルビルの整備、そして伊ヶ谷避難港への避難路の整備を進めていただいております。村としても地域防災計画をはじめ、防火のしおり、土砂災害ハザードマップなどの活用、噴石シェルター等の整備、定期避難訓練の実施などにより、安心・安全な防災島づくりに向け、鋭意努力を続けているところであります。

噴火時や有事の際に、避難舎としても活用できる三池港船客待合所や三宅島空港新ターミナルビル、伊ヶ谷避難港への避難路が早期完成することで、村民も観光客に対しても、より安心・安全を担保することができます。引き続き、安心・安全な防災島づくりの取組にご協力をお願いいたします。

それでは早速ですが、都と連携して対応すべき喫緊の課題について、2点ご説明いたします。

1点目は、都と連携して対応する喫緊の課題「チルドレンファースト社会の実現を目指す取組に対する支援」です。全国的な保育士不足が深刻な状況にある中、本村においても例外ではなく、人材不足が慢性化しております。十分な人数を確保できないことで、実際に勤務する保育士の負担も増大し、このことが離職を誘発する要因の一つとなり、事態は深刻化しております。

本村では園児数が増加傾向にあるとともに、令和5年度当初において職員の欠員が生じていたため保育士確保を行うべく、人材派遣会社に頼らざるを得ない状況となっており、受け入れのための生活基盤整備に係る経費や赴任のための旅費・派遣料金などの財政負担が増加しています。引き続き、安全・安心な保育実施体制の整備を行うには、保育士確保対策の継続が必須であります。

また、村では昨年に引き続き、東京都から移管された児童公園について、子供たちが伸び伸びと遊び、他者との交流を通じて多様な体験ができる環境づくりを行うため、子供の目線に立った環境整備を推進しているところです。

今年度においては、三宅島ならではの自然要素を活用した、多種多様な体験をすることができる公園として整備を行うため、実施設計および測量業務を進めてまいります。社会の宝である子供たちが健やかに成長していけるよう、子供たちの身近な場所で遊びを通じて多様な体験ができる環境づくりを行ってまいります。先に申し述べた事業を行うことで、子供の笑顔あふれるチルドレンファーストの社会の実現を目指す村の取組に対し、支援をお願いいたします。

2点目は、都と連携して対応すべき喫緊の課題「災害時に活用できる再生可能エネルギーの導入に向けた取組への支援」です。

噴火災害のほか、南海トラフや元禄型関東地震による津波や地震による被害、台風や豪雨による風水害や土砂災害など、様々な災害リスクが想定されている本村において、村民の生命・財産を守るための減災・防災の取組は非常に重要です。特に津波等により、海岸部の火力発電所の機能喪失に発展し、復旧には長時間を要することも想定されることが大きな課題となっております。

電力会社においては、発災時における電力供給について高圧発電車を配備することにより、当面の応急整備を図る体制づくりを進めておりますが、あくまで代替対策であることから、村ではこのような課題を解決するため、現在、現況調査を行い、防災拠点施設等の機能強化、及び脱炭素化を目的として、台風等の非常時でも発電し、活用可能な再生可能エネルギーの導入を計画し、促進しているところです。

災害時において、村民の安全・安心を守る重要な施設である防災拠点施設等の機能維持を図るとともに、脱炭素化の同時実現を目指す再生可能エネルギーの導入に係る支援をお願いいたします。

これらの取組を通じて、引き続き村民が安心・安全に生活できる、より豊かな島づくりに

努めてまいります。

今後とも更なる東京都のご理解とご支援をお願いいたしまして、私からの説明を終わります。ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございます。

まず冒頭、知事の方から、村長からありました、観光コンテンツの開発のお話と要望に対してお願いをいたします。

○知事 はい、櫻田村長から三宅島ならではの観光体験、そして特産品のブランド化ということでお話し頂きました。

火山特有の景観。そしてまた、体験など三宅島にある地域資源を磨き上げて海外でも伝えていくことが重要です。エンデューロなんていうのも本当に大好きな人たちいっぱいいますからね。リピーターとしてまた来ていただければと思います。しっかりとそれを伝えていくということが重要だと思います。

そして、お話にありました保育士さんの件ですが、この人口の推移を見ていると少しずつこの三宅村とすれば人口が減っていると、じわーっと減っているということは事実かと思っています。しかしながら一方でこのコロナ禍も経まして、テレワークとかですね、自然に対しての非常に興味は高まっていると。ですから、そこをこのタイミングはむしろ、どうやって生かしてチルドレンファーストの三宅村にしていくかっていうのは大きなポイントだと思います。そういう中でお話にありました、保育士さんの確保ということでございます。

保育人材の確保、定着というのは欠かせないわけですし、また、これについては都がコーディネーターによる就職相談、そして定着の支援や保育士さんが辞めるのではなくて戻りたいという人を作る、復職の支援ですね。そのための資金の貸付けも実施をしているので、生かしていただければと思います。

今年度ですが、高校生を対象にした保育施設での職場体験を拡充する保育の魅力、発信事業の開始等々、保育人材の確保策も強化しておりますので、どうぞ村長、そこもフルに生かしていただければと思います。

それから児童公園ですが、子供が伸び伸びと遊んで、他の人たちとの交流を通じて多様な体験をできるっていうのは、それはまさに公園ですよね。環境づくりに向けて、多面的な取組を進めております。遊び場の確保、基盤整備ということで学び、居場所、それからインクルーシブなど、幾つかキーワードがあるわけですがけれども、その機能を持った施設を遊び場づくりに合わせて整備することも後押しをしておりますので、よく連携しながら子供たちが安心して過ごして健やかに成長できる環境づくりをつくっていきたいと思います。

この後、副知事の方から お伝えいたします。

○副知事 はい、それでは私の方からは、災害時に活用できる再生可能エネルギーといったようなお話を村長から頂きました。

まさに島しょ地域は津波、台風、そういった様々な災害リスクを抱えております。そういったときに、電力、エネルギーの拠点。これを災害に仮に遭ってダメージを受けても、それが復元できる、横文字でレジリエンスなんて言ったりしますけれども、こういったもの

り組むためには、キーワードは2つ。村長もおっしゃっていましたが、まさに地産地消型の設備をしっかりと整備していく。さらにはそれが脱炭素ということになるかと思えます。

そういう意味では、まさにその再生可能エネルギーの活用可能性というのを三宅村に限らず、島しょ地域では精力的に進める必要があるだろうと。一部、風力ですとかっていうのも話も伺っていますが、地熱も含めてですね、様々なその再生エネルギーの活用に取り組んで、先ほど申し上げましたけれども、地産地消でかつ脱炭素でレジリエントな、そういうエネルギー体系をつくっていくと、東京都も引き続き様々な制度を用意しておりますので、島と連携をしてその取組を後押ししていきたい。このように考えております。私から以上です。

○行政部長 ありがとうございます。村長、追加のご発言等何かございますか。

○三宅村長 そうですね。私は知事が言う「島は東京都の宝だ」という言葉が大好きなんです。島しょは都民の憩いの場として、また奥座敷として発展するよう支援をお願いしたいと思えます。以上です。

○行政部長 はい、ありがとうございました。

○知事 はい、ありがとうございます。この間も津波でカヌー船が流されたってあれ三宅だったですかね。

○三宅村長 八丈の方だと思います。

○知事 あれ八丈ですか。そうですか。でも津波で、今回の何か訳が分からない形っていうのが、より気味が悪いのですが、いずれにせよ、いろんな災害これからも備えていきましょ。はい、御苦労さまです。

○三宅村長 ありがとうございます。

○行政部長 ありがとうございます。以上で終了いたします。

○行政部長 八丈町との意見交換を開始させていただきます。始めに知事から一言お願いします。

○知事 はい、山下町長、どうぞよろしくお願いいたします。コロナの間は本当に厳しかったですけど、最近は色々な動きが出てきましたね。そういう中で「スマートモビリティサービス実証事業」ということで、AI デマンドタクシー、そしてシェアリングモビリティ、自動運転バスの実証事業を実施しているところでございます。

これはすなわち動き出したってことですね。社会がね。島の地域の持続的発展のためにも、そういったこれからのニーズ、これをしっかり捉えながら、連携協力してまいりたいと思います。

限られた時間でございますが、御意見、御要望も含めて伺わせて頂きます。よろしくお願いいたします。

○八丈町長 よろしくよろしくお願いいたします。

○行政部長 どうぞお願いします。

○八丈町長 小池都知事をはじめですね、東京都の皆様方には日頃より大変お世話になって感謝しております。

先ほど知事からもありましたように、デマンドタクシー、また自動運転の関係もですね、観光のお客さんもデマンドスクーターというのを大いに活用してくれるような印象を受けております。今後ともよろしくお願いいたします。

また、新型コロナウイルスの位置づけが、5類へと移行したことによりまして、八丈町でも日常生活が戻りつつあります。そういう中で観光による来島者も増加傾向にあります。また、特にこの4月に公開されました「劇場版名探偵コナン黒鉄の魚影（くろがねのサブマリン）」の影響はとて大きく、コロナ禍以前の規模まで増加しております。

しかしながら、人口減少、少子高齢化、厳しい財政状況など、町を取り巻く情勢は厳しさが増してございます。「安全で安心なまちづくり」の先頭に立ち、町民の皆様の暮らしを守り、次の世代へと引き継いでいくために、様々な行政課題に取り組んでいく考えてございます。

加えまして、「ともに支え合うあたたかい町」としての、地域社会の持続的発展の実現を目指しまして、昨年度ご承認頂きました、サステナビリティ及びDX推進による産業活性化・地域社会・インフラ高度化事業を継続・実施しております。引き続き、東京都のお知恵やお力添えを拝借しながら進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、八丈町からは3点お話しをさせていただきますけれども、まず第1点目ですが、DX事業の継続的な連携についてでございます。

現在、昨年度承認頂きました「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」に加えて、農業DX事業、畜産DX事業について東京都からの支援を受けまして、事業を進めているところでございます。いずれもデジタル技術を活用した事業を行っていくもので、3か年計画で想定をしておりますけれども、事業初年度にIoT機器などを導入、2年目にはデータ

収集と分析、3年目には情報収集と分析を継続しつつ、今後の政策立案の検討を行っていくという予定で動いておりますけれども、しかし事業を進めていくうちに、課題が出てまいりました。

気象データや畜産の動向などを数値化し、データの動向を把握していくには、複数年かけて各種のデータを収集する必要があります。そこから八丈町に見合った政策立案を行っていくとなると、3か年という期間は短く、より長期的な事業として取り組む必要があると考えております。

DX 推進を進めていく上で、町の財源は限られているところから継続して東京都と連携する事業として実施していくことが重要と考えておりますので、前向きなご検討をお願いしたい。

続きまして、2点目ですが、学校給食の無償化についてでございます。政府は「こども未来戦略方針」の素案として、小中学校の学校給食無償化を盛り込みましたが、具体的な実施時期が見えてきておりません。

東京都内でも、早期実施している自治体が増えている中、八丈町でも独自に実施できないか検討してございますけれども、限られた財源の中で実施する必要があるため、実現できておりません。八丈町を含めた島しょ地域に限らず、東京都全体においても、独自実施が困難な自治体は多いと考えています。学校給食費の無償化を早期に実現させるために、国に対して働きかけをお願いいたします。

続いて3点目ですけれども、第2子の保育料無償化に伴う、保育士人材の確保についてお話させていただきます。

東京都による子育て政策として、この10月から第2子の保育料無償化が実施されました。子育て世帯の方々にとっては非常に助かる事業でございます。八丈町住民からも喜びの声が上がっております。町としましても感謝申し上げます。

第2子の保育料無償化によって、子育て世帯の負担が減り、さらに子供を保育園に預けやすくなったということで、入園希望者が増加していくことが予想されております。八丈町では、先ほど三宅さんからもありましたように、保育士不足の影響により、令和5年度から1園が休園してございます。職員採用の年齢の制限緩和や、保育士資格取得補助金などを導入して、人材確保に動いておりますけれども、十分な人材が確保できておらず、令和6年度においても休園となる見込みが高い状況です。

チルドレンファースト社会を実現していく上でも、保育所の適切な運営は重要であることから、保育士確保に向けて、何かしらの対策を講じて頂きたいと考えております。以上です。よろしく願いいたします。

○行政部長 ありがとうございます。

まず、冒頭、村長の方から映画上映による観光客の増加しているのだというお話とともに、要望に対して知事の方からご発言をお願いします。

○知事 観光来島者、コナン様様ですね。これはリードパークリゾートというところがモデルになっているのですね。すごいね。こうやっていろいろ発信をする、そして魅力を伝えて

いくということが何よりも重要だと思えますが、八丈はいっぱい観光資源がそもそもあるわけですから、それをより生かして、また、郷土料理なども、町を挙げて磨き上げてPRしていただければと思います。宝島プロジェクトもそうですけれども、このチャンスを逃すことなく、島の魅力を多くの方々に届けられればと思っております。

3点ご要望がございました、ご意見もございました。DX 事業ですけれども、これについては今回、宮坂副知事がヘッドで、GovTech 東京という形で、全部の東京の区市町村、八丈も含めて、お入りいただいております。一方で、全体的に見る部分と、それぞれのこの島のニーズというか、これら地域に密着した取組が不可欠でございます。「東京宝島サステナブル・アイランド創造事業」ですけれども、公・民それぞれ共創をしまして、共に創るという意味です。地域産業の活性化、そしてデジタル技術、先端技術もそうです。これは日進月歩ですから、本当にそれを全部フォローしていくと、一つの島、一つの村で、町でカバーすることはなかなか大変ですけれども、連携しながら進めていきたいと思っております。

ザトウクジラの回遊映像のVR コンテンツ化とか、顔認証決済の導入等々、様々な分野でDX化も推進しておられます。また都としてもその取組を伴走型で支援をしております。

また、農業もDXの対象でございますが、八丈の農業の研修センターで、このDXを活用してハウス栽培を行う取組の後押し、そのほか、町営の牧場での放牧管理システムの導入などサポートも行っております。

全産業で人手が足りない、人材不足だ、そしてデジタル化が進んでいる。そこに対しての技術が必要。もういろいろと課題はありますけれども、こうやって全体を見回しますと、やっぱり人材をいかに育成し、それを進めていかに尽きるんだろうと思っておりますので、特にコロナを経て、ワーケーションなどもすごく普通に語られるようになりました。DXを活用して、スマートアイランド化の推進に向けて八丈の皆様、そして事業者とも連携して取り組んでいきたいと思っております。続いて副知事の方からお伝えいたします。よろしくお願いたします。

○副知事 はい、町長ありがとうございます。私の方からは、学校給食の無償化の話と保育所のお話を賜りましたので、お答えさせていただきます。

まず、学校給食費の保護者負担の無償化この問題でございますけれども、これは国全体として学校給食費の負担のあり方を抜本的にまず整理をする。それから財源ですけれども、臨時交付金のような一時的な措置ではなくて、しっかりと国の責任で財源を確保した上で、具体的な方向性を示す。これが必要だろうと都は考えております。

全国の都道府県教育委員会連合会においても、国に対して同様の趣旨で要望をさせていただいております。国において、その課題の整理を行っているというふうに聞いておりますが、動向をしっかりと注視をしていきたい。このように考えております。

それから、保育士の確保のお話を頂きました。これは極めて切実な問題であるというふうに私どもも思います。

この保育人材の確保につきましては、いわゆる、潜在保育士の方々、こちらがきちっと復職・復帰ができるような支援、そのために向けた様々な取組を都としても行っております。

保育人材コーディネーターによる就職支援や定着の支援、今申し上げた保育士の復職の支援といったこと。そのための、資金の貸付けなども実施しております。

また、令和5年度では高校生を対象とした保育施設への職場体験の拡充、保育の魅力発信事業の開始など、保育人材の確保に向けた取組を多面的に展開しております。

今後とも島しょの実情を踏まえまして、保育人材の確保、定着に向けた動きを都としても連携して取り組んでまいります。以上です。

○行政部長 ありがとうございます。町長、追加で何か御発言等ございますか。

○八丈町長 特にございません。今後ともよろしく願いいたします。

○行政部長 はい、ありがとうございました。

○知事 こちらこそよろしく申し上げます。今日はありがとうございました。御苦労さまです。

○行政部長 以上で意見交換終了させていただきます。また、本日の意見交換は以上で終了となります。ありがとうございました。